

国際協力特別賞

「知らないなら伝えよう」

関東学院中学校 3年

今 愛莉

私には、誇りに思っている事があります。それは、中国人と日本人のハーフという事です。しかし、小学校の頃はハーフという事が大嫌いでした。

私が小学1年生の時、ハーフという事はすごい事だと思っていたので皆にその事を話してしまいました。すると、皆の口から出てきたのは、「中国に帰れ!」「中国人、嫌い。」という悪い言葉ばかりでした。その時の私は、反抗してしまっただけで、もっとひどくなると思っていたので、そういう事を言われたら何も言い返しませんでした。そのまま、中学生になりました。私は、ハーフという事を秘密にしていました。しかし、仲の良い友達には、ばれてしまいました。またひどい事を言われると思ったら友達は、「中国語、しゃべれるの?」と言い、私は少し話せる事を伝えると「すごいね!」と言ってくれました。それから、私は中国の事を話したりしました。「中国では毎日市場が開かれてて、すごくにぎやかなんだよ!」と言うと、「楽しそうだね!」と日本とは違う所におどろいていました。その時、私は考えました。小学生の時、ずっと言われていたのは、私が皆が知らない中国の良い所を伝えなかったからだに気がきました。皆が悪い所しか知らないなら、知っている私が伝えないといけないと思い、中国と日本の関わりについて調べてみました。

私が一番おどろいたのは、東日本大震災の時の中国が日本にした支援についてでした。中国の救援隊15人が3月13日昼に国際救援隊の中で最も早く日本に到着しました。そして、中国は日本に計3,000万円の緊急無償人道支援を行い、3月12日に商務部が援助に着手すると、日本側の要請に応える形でタオルケット2,000枚、テント900張、非常用電灯200個を送ったそうです。私自身も知りませんでした。

このように、お互いに助け合い、支え合って日中友好関係を築こうとしている人達が居るなか、何も知らない人が相手を傷つける言葉を言うてはいけません。言われた人は自分しか知らない国の良い所を伝えなければならぬのです。ひどくなる事をおそれずに、知っている事をしっかりと伝えれば、必ず国と国同士がお互いに良い所を知る人が増えていき、世界で起きている人種差別が減ると思います。

私はこれからも自分から中国の事を知り、それを知らない人達に少しずつ伝えていきたいと思えます。